

交流・文化施設等整備検討委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会 専門委員会 ホール部会
2	日時	平成20年11月26日(水) 午前9時から11時まで
3	会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4	出席者	日端座長、美山委員、土本委員、佐田委員、津村委員、関田委員
5	市側出席者	石黒副市長、大沢政策企画局長、小菅教育次長、 宮川政策企画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、 若林交流・文化施設建設担当係長、室賀係長、徳田主任、
6	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
7	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
8	傍聴者0人	記者0人
9	会議概要作成年月日	平成20年11月26日

協議事項等

1	開会(大沢政策企画局長)
2	副市長あいさつ 11/21の第2回専門委員会では、ホールと美術館を一体とすることの難しさについて意見が出された。非常に過密なスケジュールで検討いただいております、状況によっては会議の回数を増やす可能性がある。よろしくお願ひしたい。
3	委員長あいさつ 今日は交流・文化施設で最大の施設となる、ホールの、規模・機能・運営等、様々な角度から意見をいただきたい。
4	報告事項 (1) 第2回専門委員会の概要について 事務局:(説明・資料1) 座長:何かご意見、ご質問は。 委員:(なし)
5	議事 (1) ホール施設整備について 委員:一流のクラシック、ミュージカル、オペラに対応しつつ、講演会も可能な劇場型多目的ホールとすべき。現在の音響技術であれば可能。規模については興行として成立する1,600~1,800程度。また、座席の取り外しが可能な、まさに多目的な小ホールを併設。トイレについては、最近の新しいホールでさえ女性トイレが不足する問題が生じている。クロークやピュッフェについても同様。来場者は非日常感を求めて訪れるため、入館までの動線や入場口、スタッフの対応など、全てにおいてそうした非日常性に配慮することが必要。 委員:長野や松本に大ホールがありながら、さらに上田に必要であろうか。ホールは「消耗品」と言うことができ、仮に20年という単位を考えればメンテナンスだけで100億はかかる。ホールの規模と運営経費との関係は正比例でなく、規模の上昇より大きい割合で運営経費が増えていく。なお、鑑賞事業について、長野市や松本市と正面から勝負するのか、あるいは連携するのか。これらの方針も明確にする必要がある。現在の施設コンセプトからは、上田市が非常に大きな覚悟を持ち、積極的に事業展開していくように感じられるが、開館した途端にトーンダウンするようなことがあってはならない。 座長:多目的ホールという位置付けについてはどうか。 委員:多目的ホールにせざるを得ない。現在の技術では、費用をかければ残響についてかなり自在に変えられる

- 委員：音響については、借り手側の技術も問われる部分であり、ホールとしてはある程度の水準を確保しておけばよい。アマチュアの方が借りる場合はホール側が指導してあげればよい。
- 委員：「文化の産業化」という視点も必要。つまり、ホールができることによって、例えば企画会社ができ、技術分野の会社ができ、という想定の中でホールの規模や機能を考える。
- 委員：市内に小規模のホールがいくつかあるため、役割分担や連携が必要。
- 委員：大ホールの他に、演劇用の中ホールとスタジオ形式の小ホールがあれば理想的だが、中ホールは大ホールの客席数を可変させて対応し、小ホールについてはリハーサルや大ホール公演後の交流パーティーなどに使うことで、市内の文化活動が本施設のみに集中しないよう配慮する。
- 委員：良いホールを造ることは当然だが、地域との連携、共生、協働のためのプログラムを提示していく。そのためには、既存の文化施設との役割分担が必要。市民要望を全て取り入れようとするれば、次第に施設規模や機能が肥大化していくため、専門委員会で費用対効果を検証しながら取捨選択を行っていく。
- 委員：ホールの規模については、小さめでよい。今は市民要望が膨らみすぎている状態。例えば、小中学校の吹奏楽地区大会ができる1,500席規模、という要望があるが、あえて上田ではなくても、同じ長野県民として県立の文化会館を使用するという発想にすべき。1,500席の根拠も未確認であり、あまり素直に受け止めると危険。また、中野市や佐久市でもホールの計画がある中、連携のない状態で計画を進めることもやはり危険、競合が目に見えている。第2回専門委員会でホールと美術館の合築・分棟についての議論があったが、ホール部会としてはどうか。
- 座長：合築にも様々な形式があるため、ホールと美術館の価値観の違いなどを踏まえた上でコーディネートすれば解決できる問題。外見的には合築だが内部で別れる形が合理的かつ効率的。
- 委員：ホール部門と美術館部門では管理方法が異なるため、同じ場所で独立している形式が良い。
- 座長：設計者についてはコンペで決定することと思うが、コンペ案に対して、決定後にも市からの注文を反映できる方式としておくことが必要。
- 委員：注文を入れられる余地がなければ、ここで議論した意味もなくなってしまふ。
- 座長：ホールの規模について、運営費に関するデータがあれば議論を行いやすい。
- 事務局：必要なデータであり、人件費を含めた形で資料を作成する。
- 委員：事業について、自主事業も重要だが、貸館を主体とし、その収入を地域に還元する考えも必要。実際には、自主事業で収支が向上することはなく、年間で100日程度は貸館にしなければ成り立たない。
- 委員：施設の管理者については未定であると思うが、仮に指定管理者で利用料金制をとった場合、事業の内容よりも利用率や収入のみが重視される恐れがある。同じ「貸館」と言っても、その内容によっては危険性を持つ。
- 委員：利用料が一日数百万にも関わらず、非常に人気が高く、なかなか借りられないホールもある。上田においてもこれだけの立地条件で、かつクラシックに最適なホールとなれば、十分に興行の対象となり、全国的な、また国際的な交流拠点のひとつとなる。但し、規模が例えば1,200席程度であればチケット代が非常に高額となるため、適正な規模が必要。
- 座長：セレスホールの利用料や事業の状況は。
- 事務局：席数808席で、自主事業を行いながら、市民利用を中心とした貸館を行っている。利用料は全日（全館）で約10～25万程度。
- 委員：808席というのは興行主の立場では使いにくい。1,200席でも、興行の規模を縮小しても可能かどうか微妙なところ。ある程度大きなバンドやシステムを使用する興行であれば1,500席以上は欲しいが、上田市の人口規模では1,800席以上は明らかに不要。それから、上田市がこの恵まれた立地条件を踏まえて、このホールで何をやりたいのか、どのような特徴を持たせるのか、この点が明確にする必要がある。また、県内のプロモーターと連絡を取り合い、メリットを提示しながら、とにかく使ってもらおう、このことが非常に有効。
- 委員：東京から長野市までの新幹線沿線にクラシックに相応しいホールがなく、広い範囲においての、また、数十年間にわたっての重要な拠点となり得る。
- 委員：席数については、ランニングコストを含めて事務局の方で提案されたい。

委員：この施設において何を実現すべきか、という「ミッション（使命、活動目的）」を明確にする必要がある。芸術鑑賞だけでなく「上田ではこの施設を通して ができる」という創造的なメニューを提示することで規模・席数も見えてくる。

委員：先程費用対効果の話が出たが、この「ミッション」の部分を確認しなければ、何が「効果」なのか見えてこない。そしてこれは、上田市側から、行政の立場として「この市を、どういう街にしたい」という目標が提示されなければ、私達も議論ができない。「市民会館」と「劇場」では、何もかも全く異なる。この点も明確にされていない。

事務局：今回は施設の管理者や貸館への考え方、ランニングコストなどを踏まえた上で、席数や合築・分棟の課題についても触れながら、市としてある程度の具体案を提示したい。ホールは「消耗品」という観点を持ちつつ、「ミッション」や、「市民会館」と「劇場」の選択についてもできるだけ明らかにしてまいりたい。

委員：JT 跡地全体計画について、統一のコンセプトが明確になっていれば、それに沿った議論が可能となり非常に有効。

座長：市で中心市街地活性化基本計画が策定される中、本事業も連携し、一体的に進めていく。アンケートの回収率が低く、関心が薄いとも思われる若年層を効果的に呼び込むような、そんな方策も必要。

事務局：上田市での合併特例債発行限度額（建設事業分）390 億のうち最大 150 億を用い、かつ市の中心地での計画であるため、合併した旧町村の住民の皆さんからの理解も十分に得なければならない。

事務局：「文化」にはお金がかかる、という面もあるが、費用対効果を明らかにしながら、また既存施設との連携を図りながら、トータルな議論の中で市民の皆さんの理解を得てまいりたい。

座長：今回は、費用対効果・規模・コストなどのデータを事務局から提示されたい。

委員：ホールの規模によって固定経費は算出できるが、それ以外の部分は市の政策的な判断による部分が大きい。また、ホールの中で事業が完結した時代は終わっており、外部へ発信することが重要であるが、それがたとえ医療や福祉、教育に効果を与えたとしても、現実的には市の他部署が費用分担することは困難であり、結局はホールが負担することとなる。これらの点も十分留意されたい。また、外部への発信により産業などへの波及効果が得られるが、これを行わなければ、旧態依然のホールになってしまう。

委員：音楽や文化のセンターというだけでなく、地域振興、観光、教育、広報など、市全体の活性化の拠点とする。

委員：ヨーロッパの都市でも見られる例だが、文化芸術の発信のみならず、将来のための上田の都市戦略としての事業とする。また、これが事業に対する市民理解も容易にしていく。

座長：今日は大変幅広い意見が出された。今回は市から施設全体について提案が出され、それに基づいて議論する。

（２） その他

事務局：今回は 12/8（月） 株東京国際フォーラムにて第 3 回専門委員会を開催する。なお、先程質問のあったセレスホールの使用料金については、平日全日で 13 万円、土・日・休日で 14 万 8 千円（3,000 円を超える入場料を徴収する場合）であることを報告する。

6 閉会

座長：本日はお疲れ様でした。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1 週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。